

20年ぶりに若手の会に参加して



菅 原 一 晴

分析化学会における若手の会は、北海道、東北、関東、中部、近畿、四国中国、九州支部において、それぞれ分析緑陰セミナー、日本分析化学会東北支部若手交流会（東北支部と関東支部は隔年で東日本分析化学若手交流会）、分析化学若手交流会、「分析中部・ゆめ 21」若手交流会、近畿支部夏季セミナー、分析化学若手セミナー、若手研究講演会および夏季セミナーが日帰りまたは1泊2日（それ以上のことも）で開催されております。読者の皆様はいづれかの若手の会に参加されたことがあるかもしれません。今年、私は支部長として群馬県の「フォレストリゾートコニファーいわびつ」で開かれた東日本分析化学若手交流会に招いていただきました。今回、私自身の都合により数時間の顔出し程度でありましたが、20年ぶりの参加となりました。私が若手の会に出席したころは、「若手の会は40歳定年」と聞いていました。定年以来、足が遠のいておりました会場は昔と変わらず活気があり懐かしい思いにかられました。

ところで、若手の会について幾つかの支部の先生から「最近、参加者数がなかなか増えない。現状維持でも大変である。」、「マネージメントする先生の世代交代がなされていない。」、「運営予算を考えると適当な開催場所の確保が難しい。」、「若手の会に対しての学生さんの参加意識はあまり高くはない。」などのご意見を頂いております。昨今、皆さんのが多忙であり時間に余裕がない、大学での研究室の体制の変化、物価の上昇、価値観の多様化など様々な理由があるかと思います。この現状に対しまして、今できることは、それほど多くありません。お願いの域を出ませんが、関係の方々、マネージメントされている先生に、よりご協力していただけないでしょうか。来年度、各支部の運営予算配分が増える予定になっております。これを機に、皆様のお知恵をおかりしまして、若手の会の新しい方向性を見いだせればと思います。また、若手の会に参加された学生さん、まだ参加されていない学生さんへ声をかけていただけますか。

関東支部では、他の支部でも実施されているかと思いますが、運営されている先生と協賛企業の方とのご尽力で、企業展示や事業内容のアピールを特に学生さんに対しまして積極的にしていただいております。このような試みは、参加された学生さんと企業さんにとって、大きなメリットとなることが期待できます。

結びとなります。若手の会で築き上げられた人と人とのつながりを大切にして交流の輪をひろげていただきたく存じます。そのつながりは、次の若手の会、自身の研究の発展、共同研究、学会活動や就職活動など様々な場面で生きていくことを信じてやみません。分析化学会を盛り立てていきましょう。是非、参加のほどよろしくお願いいたします。

〔SUGAWARA Kazuharu, 前橋工科大学工学部生命工学領域, 関東支部長〕